

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600155		
法人名	社会福祉法人ひとつの会		
事業所名	グループホーム自由の杜		
所在地	山口県防府市大字大崎801-1		
自己評価作成日	平成27年4月30日	評価結果市町受理日	平成27年12月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年5月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「喜怒哀楽」を基本に、利用者一人ひとりの思いや個性を尊重し、毎日が楽しく利用者と職員がお互いに笑顔で過ごせるように、日々努力しています。今を大切に、季節にあった行事や、外出行事を多く取り入れ、楽しみが常にあるホームを目指しています。誕生日には利用者の希望に添えるよう個別外出を企画し、日頃は共同生活だけでも、いつもとは違った外出で開放感を味わってもらえ、とても喜ばれています。またホーム内の利用者全員でお祝いをし、喜びは皆で分かち合えるよう取り組みを行っています。利用者の方はもちろんのこと、ご家族にもこのホームでよかった、と安心され、また喜ばれるようにと、いつ来ても笑いの絶えないホームを目指し利用者の方々と職員と一緒に日々取り組みを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議で出された意見から、地域と合同で夜間火災を想定した訓練を実施されたり、地元の消防団員を対象にした認知症を理解するための研修を実施されるなど、運営推進会議を活かして災害時の地域との協体制づくりに取り組んでおられます。管理者は職員ひとり一人の段階にそった個別指導に重点を置かれ、内部研修は職員からの問題提起を基にテーマを決められ、随時、話し合いを主とした内容で実施しておられるなど、職員を育てる取り組みをされています。施設長や管理者は現場の職員の意見や提案を大切にされ、意見が言いやすい雰囲気づくりに努めておられる他、「温故知新」の書に書かれた意見や提案を全職員で話し合い、ケアの工夫や改善、新たな方向を決めるなど、運営に反映しておられます。事業所では、利用者の日々の生活を、写真やスライド、動画などに記録しておられ、家族や馴染みの人の来訪時に見てもらったり、運営推進会議等で参加者に利用者の日常の様子を知ってもらうように工夫されるなど、地域とのつながりや馴染みの関係が途切れない支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域の中で、四季折々の景色を見たり感じたりしながら安心して生活を送っていた。人としての喜怒哀楽 表情豊かな日々を送っていただけるように毎月ホーム内行事、また外出を企画し楽しみ、喜びを全員で分かち合えるよう支援を行っている。自然に恵まれた安心した環境で、笑いの絶えない生活を送られるように努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、法人の理念と一緒に事業所内に掲示し、日々の業務の中で、利用者は「生き活きとしているか、いつも笑っているか、今したいことができているか」を確認し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気が良い日は散歩や草取り、又は畑づくり等外に出て、今いる地域、この場所を居心地いいなど、ご自分たちが感じていただけるように努めている。ボランティアの方や見学者等多くの方の来訪が継続している。また、併設の特別養護老人ホームの入居者の方々とも定期的に関わりを持ち、顔なじみになってもらえるようにサークル活動や喫茶、イベントも企画に加わり事業所同士の連携また協力しながら開催を継続している。自治会にも加入し、地域の方々とも顔なじみの関係性と地区行事には参加を行っている。	自治会に加入し、地域の清掃作業や草取りに利用者職員と一緒に参加している。回覧版を通して地域行事を把握し、地域の神社の大祭や供養祭、観音様の供養祭等に参加している。併設3施設主催の自由の杜祭りには、地域の少年少女合唱団や和太鼓の出演があり、子どもから大人まで多くの人の参加を得て、利用者は浴衣を着て楽しんで、地域の人と交流している。しめ縄飾りづくりや門松づくりに地域の人の協力がある他、裸坊祭りに参加の神輿が立ち寄ったり、ボランティア(手芸、カラオケ、マジックショー)の来訪がある他、併設の地域交流スペースのサークル活動参加者や喫茶の利用者と交流している。散歩時には地域の人と挨拶を交わしたり、近くの馬場を利用する馬主や馬と触れ合ったり、花や芋、大根などの差し入れがあるなど、日常的に交流している。小学6年生の職場体験や市職員の研修等の受け入れをしている他、年2回、市の認知症啓発事業を受諾して周辺地域の高齢者や消防団員を対象に研修会を実施している。事業所便りを自治会に回覧して、事業所行事への参加をよびかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の認知症啓発事業の委託を受け、地域の方へ認知症高齢者の理解を得られるように継続している。また施設見学も希望に応じてグループホームの特色を説明しながら、実際見ていただき理解していただけるように努めている。入居希望者の訪問に対して、ご家族が認知症でどのように介護したらよいか、また悩み等を伺い、ホーム内でしばらく過ごしていただき、ホームでの利用者の方々の生活風景や関わり方等を実際に見ていただき、在宅での生活に活かせるように支援を行っている。運営推進会議では自治会長、民生委員の方も交えて事業所の特色や関わり方など工夫している点等を報告し、ご理解を得られるように努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については、意義を理解し、評価項目に基づいて施設運営を行っている。自己評価は各職員が割り当てを持ち、何が必要なのか、何をすべきなのかなど、日々の実践を振り返りながら各項目を自ら記入している。記入する際に、昨年の評価を見返すことで、今よりも、サービスの質の確保及び向上出来るように取り組みを行えるように努めている。	管理者は、評価の意義を説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布して、担当項目を決めて記録してもらった後にまとめている。記録が十分でない場合は再度考えてもらうなど、職員は、自己評価を、日々のケアの振り返りと捉えて、項目の理解が深まるように取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、事故防止の取り組みや事故発生時の備えについて、看護師の指導を受けるなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行うに当たり、毎回定期的に報告を行っている事故報告等のほかに、色々と報告する内容を変え、意見や案などを伺いながらサービスに活かせるように取り組んでいる。外部評価についてや日程及び内容、結果もその都度会議の場で報告を行っている。	2か月に1回、併設の法人施設と合同で開催し、利用者の状況や事業計画と実施報告、事故報告、外部評価結果報告、法改正の説明等を行い、意見交換をしている。カラー映像や動画を利用して、利用者の日常の様子を理解してもらえるように工夫している。話し合いの中から、地域と事業所の合同での防災訓練の実施や地域の消防団員を対象にした認知症についての研修を実施している他、施設の入出入口が分かりやすいように、安全のための看板の設置などの意見を活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センター職員には委員として出席をお願いし、事業所の運営内容をお伝えしながら、ホームの特色や取り組みにご理解を求めるようにしている。また毎回会議の最後に場を設け、市からの情報など情報交換を行っている。	市担当課とは電話や直接出向いて、法の改正内容や介護保険の更新申請についての相談を行い助言を得ている他、「認知症啓発事業」の受託、市職員の実地研修の受け入れなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議時やハートフルネット会合時、電話、直接出向くなどして情報交換や相談を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵を締めず、外に出られる際には見守りを行っている。又各入居者様の居室にはテラスがあり、外にでて散歩される近所の方と話をされたりと、閉鎖的な環境を作らないように努めている。日常の関わりの中でのスピーチロックについては重く受け止め、職員がお互いに指摘しあいながら、取り組んでいる。また適切な往診や専門医に受診の際には細かな日頃の状況報告を行い、利用者にとって適切な服薬での安全な生活を継続していただけるように努めている。	職員は法人研修や内部研修で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、居室から続くテラスへの出入りも自由にできる。スピーチロックについて、気づいた時には職員間で注意し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や法人内研修にも学ぶ場があり、参加を行えるようにしている。各入居者の方に、職員が担当者になり、ケアの方針等変更する際に他者の意見も取り入れながらひとりの考えで動くことなく、虐待に当てはまらないのかを考えて、そのひとらしい生活を送れるように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での定期的合同研修や、法人の定期合同研修へ職員は参加をしている。また参加できなかった者に対してもミーティングの際に説明し資料配布を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、ご家族とホームにて内容等の説明を詳細に行いながら、疑問や不安を解消されご理解を得るように努めている。また退去後アンケートを実施し、ご家族のご意見やご感想を、職員全員が回覧し、今後活かせるようにと考えている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情に対しての受付体制を作り第三者委員や受付窓口の担当者を明示し、契約時に説明を行っている。意見や要望等は職員間できちんと話し合いながら、運営内容に盛りこんで行けるように努めている。苦情は面会時に些細なことでも聞き取った者が管理者に必ず報告することとし、説明を行い、ご理解を得よう努めている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員を明示して、契約時に家族に説明をしている。面会時や家族会、行事等参加時、電話等で家族からの意見や要望を聞いている。家族には利用者の日常の様子を職員から伝えて、意見が言いやすいように工夫している。月に1回、事業所便りと利用者に関する報告（日常生活行動の状況）、外出行事の案内をカラー写真を添えて送付している。個別ケアに関する相談には客観的なデータを示し、根拠のある説明を行って迅速に対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	やりがいの持てる職場作りを心掛け、職員ひとりひとりの意見や提案が出せるように、記入様式を活用しながら多く取り入れている。毎月の行事担当や利用者担当等を職員が持ち、外出企画やホーム内行事、また担当している利用者のケア方法等など、職員の力や個性が出せる機会を多く作るように運営している。	管理者は、毎朝のミーティングや月1回の会議で直接職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、職員は「温故知新」の書に記録していつでも気づきや提案ができるようにしている。提案は職員間で話し合い共有し、実践に結びつけている。施設長は年2回の個人面接時や1日1回の来所時に聞く機会を設けている。ケアの工夫やメンテナンスの整備、記録物の改善など、職員の意見や気づきがケアの工夫や改善、新たな方向を決めることになるなど、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週1回の統括会議において現状を報告し、職場の問題点を報告し、具体的な改善対策等法人幹部と話し合いを行っている。職員に対して定期的に話し合いの場を設け、意見や希望を聞いたり随時相談は受けるなど、やりがいの持てる職場づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1日法人会議が行われ、いろいろな内容の研修を開催し、職員教育の場を設けている。併設施設との合同研修も行い、各職員のスキルアップに努めている。又外部の研修にも多く参加させ、復命報告を提出し、他の職員にも回覧して情報共有を行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、本人の希望や段階に応じて、勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は復命報告書を提出し、職員に回覧して共有している。併設の3施設合同での研修は、年間計画を立て、全職員を対象に月1回(全員が受講できるように、同じテーマで1か月間に4回実施)、感染症、虐待防止、ケアプランの立て方、認知症の症状、介護技術等について実施している。内部研修は、職員からの問題提起を基にテーマを決め、随時、話し合いを主とした内容で実施している他、職員の段階に添った個別指導を管理者と施設長が指導者となって行っている。新人研修は法人での研修の後、日々の業務の中で先輩職員から介護技術を学んでいる。併設3施設からなる委員会(リスクマネジメント、感染症、QOL、給食)担当の役割を通して職員の力量が高まるように取り組んでいる。山口県宅老所・グループホーム協会の研修会にも職員が参加している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修会もあり同法人内の職員同士が、顔見知りになり交流を持ちながら、良き相談相手として共に向上していけるように取り組んでいる。またグループホーム協会の勉強会等参加や、また市や県などの研修会などにも参加を推進している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には必ずご自宅、または今生活を送っておられるところへ訪問し、生活環境を把握しながら、ご家族、関係者に現状を伺っている。、またご本人やご家族からの要望等、細かくお聞きし、入居前にスタッフ間で、情報共有を行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にしっかり情報収集を行い、必ずご家族にも思いやご要望を伺い、ご本人及びご家族に安心していただけるように努めている。面会の時間を特に決めておらず、夕食後でもご都合のいい時間にとお願いをし、どの時間帯でも来れることで、安心していただけるように努めている。状況報告を密に行い、また希望や要望などを伺いながら、安心出来るホームに思っただけのように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報は、職員が共有し支援の内容を考え対応できるように話し合いを行っている。その後サービス内容の変更が必要だと思われる時にはご家族には説明をし、今現在のご本人の状況を報告し、ご理解していただけるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る力を把握し、いろいろなことを役割としてもてるように支援している。些細な会話や動作に対しても、記録に残すことで、こんなことが出来るのではと、思えることは機会を作り、行っていただけるように取り組んでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を多く来ていただけるようお願いをし、何か問題が起きた時にも、まずはご本人の気持ちを考え、その都度ご家族には対応の変更もお伝えして、現状を把握していただき、共に支える関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、ホームでの生活風景写真や脳トレの個別ファイルをお出しし、それを一緒に見られながら会話されておられる。ご家族や親戚、また友人の方の訪問時には、一緒に写真をお撮りし、居室内に掲示し、忘れられないように取り組んでいる。また、スタッフも一緒に会話を持ちながら、情報を収集できるように努め、また来ますと言っていたできるように関わりを持てるように取り組んでいる。	家族や親戚の人、兄弟、孫、近所の人、友人の来訪があり、来訪時には写真を撮り、居室やアルバムに掲載して本人や家族、友人と共有して、次の訪問へつなげる支援をしている他、利用者の自筆での年賀状や、電話での交流を支援している。家族の協力を得て、一時帰宅や墓参、法事への出席、稲田の見学、馴染みのショッピングモールでの買物、外食等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同での生活の場の、居場所づくりを考えながらいろいろな集団レクや個別レクを行い、得意なこと苦手なことの把握に努め、孤立されないように会話が皆さんで持てるよう気を配っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の方に対しては、アンケートを送付し意見をいただき今後活かせるようにしている。また終了後も本人の状況に対して、ご家族の方から相談や意見交換出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者との関わりを、多く持ち、利用者の思いや言葉などを記録し、職員同士で共有できるように心がけている。また言葉で表す事が困難な利用者に対しては、些細な行動や仕草などに気を配り、利用者の思いを汲み取り、寄り添えるよう努めている。また暮らしの情報シートを活用し、見直しも行っている。	入居前に自宅を訪問して、家族や本人からアセスメントを行い、基本情報シートや暮らし方シート、24時間生活変化シートに記録して思いや意向の把握に努めている。入居後は、利用者を担当する職員が中心となって日々の会話の内容や行動、表情や様子、しぐさなどを経過記録に記録し、レクリエーションへの参加状況や家事内容などを1日のリズム表に記録して、思いや意向の把握に取り組んでいる。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス利用状況や、多くの情報を把握できるように努めている。家族や知人の方の来訪時には、出来るだけスタッフは話す機会を持てるように心がけている。また知り得た情報を元に、生まれ育った故郷や飼っていた動物の話などを話題に取り入れながら、会話が持てるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり身体記録、経過記録があり、身体記録には食事(水分)摂取量やバイタルなど、身体の状況がわかるようにまとめてあり、ホームでの役割や1日をどのように過ごされたかが記入できるようになっている。経過記録には、利用者の行動や言動などそのままを記入することで、その場面で読んでわかるように工夫している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよい生活を送っていただけるように、担当者を中心に議題やケアの方法などを検討している。利用者の状況把握のためのシートの情報をもとに、計画作成担当者、管理者と話し合い、介護計画を作成している。24時間シートを活用し、月1回のミーティングやカンファレンスなどで利用者の現状に合う支援について話し合い、職員全員が理解しケアを行えるように取り組みを行っている。	計画作成担当者、管理者、利用者を担当する職員を中心に、本人の思いや家族の意向、かかりつけ医、訪問看護師、栄養士の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。職員の意見や提案を記録した「温故知新の書」の記録を元に随時、カンファレンスを行い、月に1回モニタリングを実施している。アセスメントを通して24時間シートに反映して、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体記録、経過記録、申し送り予定表(24時間シート)、排泄表、等入居者様の日々の記録を詳しく記入し、情報を共有できるようにしている。また、利用者の日々の様子を見ながら、新しい取り組みや、ケアの方法の変更時などは、温故知新の書という書類を活用し、リアルタイムに実践できるようにし、職員間の意思疎通が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時には状況に応じ、病院受診等の対応など、職員同士の連携で優先順位を考えながら、支援を行っている。業務の改善案、ケアの改善案を、その都度スタッフが発案や提案し、確認の上、変更していけるように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々より、行事や祭り、清掃作業など回覧板、または直接お誘いがあり、参加出来るように支援している。また運営推進会議にも自治会長や民生委員の方が来られ、意見交換を行えている。開所より毎月手芸ボランティアの方も来ていただき、入居者の方も思い思いの作品が出来上がり楽しみの一つにもなっている。また、歌など様々なボランティアの来訪もあり、併設の特養の入居者の方々と一緒に参加し、地域の中で楽しく生活が送れるように支援をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の往診をお願いし、健康状態を管理していただいている。また、毎週訪問看護も訪問し、気になることなどを相談したり、スタッフにも状況に応じた注意点や介助法などアドバイスをしてもらっている。必要な医師にも報告してもらいながら、お一人おひとりの状況に合わせた適切な医療に繋がれるよう支援をしている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1度の訪問診療がある。専門医への受診は医師の紹介状を持参し家族の協力を得て支援している。他科受診は事業所で支援している。受診結果は、その都度、電話で報告をし、面会時には、往診記録や電話相談記録を添えて説明している。週1回、訪問看護師の来訪があり、緊急時や夜間時については訪問看護師の協力を得て対応し、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週に1度の訪問看護の記録を作り、各スタッフの気づきや気になること、変化などを書き込んでいる。、訪問時に記録に目を通し、看護の方からの意見や、アドバイスを職員に直接話したり、また記録に記入していただき、職員全員が共有出来るようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活の状況や身体状況など情報提供を行っている。また何度かご本人の状況を把握できるよう面接をしている。退院前には入院中の状況や、今後の注意点を担当医または看護師に情報提供をしてもらえるようお願いをし、ご本人が退院後に、以前のように安心でき、安定したホームでの生活に活かしていけるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にはご本人やご家族とお話し、また、入居後も現状報告を常に行いながら、状況に合わせて相談し、ご理解いただけるよう取り組んでいる。退院時にはご家族に、今の状況で医療との連携を行いながら、どのような方針で進めていくのかなど話し合いを行い、また状況は詳細にご報告をしていきながら、ご家族の方にもご協力頂けるよう取り組んでいる。	「重度化した場合における指針」があり、入居時に本人と家族に説明をし同意を得ており、家族が遠方に居る場合は同意書をとっている。利用者の状態について家族と話し合う機会がある。重度化した場合は早い段階から、家族、主治医や訪問看護師、職員で話し合い、医療施設や福祉施設等への移設も含めて方針を共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや入居者の方の事故防止案の書式にての提案を随時提出し、その都度検討し改善を行えるようにシステム作りをしている。常に毎日職員同士がその日の状況や、状態に合わせて事故を予測し、対策を行い未然に事故を防げるよう取り組みを行っている。訪問看護からも、訪問時に、その都度利用者の状態から予測される必要な手当や対応法、また注意点など指導を受けている。緊急時の対応についてミーティングでも話し合ったり、研修があれば参加を行っている。	発生した場合は、内容や対応策についてその日の勤務者で話し合い、検討して、事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、全職員で共有している。再発防止策が事業所単独でできない場合は法人のリスクマネジメント委員会に報告し、助言を得て、ひとり一人の事故防止に取り組んでいる。救急救命法やAEDの使用法については、多くの職員がグループホーム協会主催の研修を受講している。急変や事故防止に向けて実践力を身につけるために、訪問看護師による事例への実践の中で学んでいるが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を整備し、併設施設との合同で定期的に火災、風水害の防災訓練を行っている。入居者参加で避難訓練を定期的に行っている。また火災については避難訓練日前に防災委員がどのようにしたらよいかを各スタッフに話すように努めている。地元の消防団の協力を得て、火災訓練も行っている。	地元消防団の協力を得て、併設施設と合同で年3回、昼夜の火災を想定した避難訓練、避難経路の確認、通報訓練、消火器の使い方を利用者や地域住民と一緒に実施している他、風水害時の避難訓練、避難経路の確認(警報で一旦特別養護老人ホームの2階へ避難)を1回、実施している。運営推進会議での意見を元に、地域との合同防災訓練(夜間、火災想定)を実施している。参加者の意見から、「認知症普及啓発事業」の一環として、認知症の人の避難誘導方法についての研修を消防署員に対して施設長と管理者が指導者となって、実施している。地域の協力者の連絡網があり、地域との協力体制ができている。非常用食品の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団の中でご本人が恥ずかしいと思われないうちに声掛けは気を付け、傍に寄り、話をするよう努めている。また、認知症の症状にあわせ、その方の状況にあった呼び名をご家族にもお話し、ご本人が笑顔で安心して生活していただけるように心掛けている。	職員は法人研修で学び、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。利用者の個人記録の取り扱いには留意し、守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日ボードに今日の予定を書き、入浴や過ごし方についてレクリエーションの場で話すことをおこなっている。個別の過ごし方の選択肢を多く出来るように声をかけたり、職員も一緒に行ったり等様々な工夫している。お茶はご自分で毎日好きなものを選択していただくようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団活動が好きな方や、1人の時間を大事にする方など様々な為、その人らしい1日の生活が出来るよう心がけている。ボードでその日のホームでの予定などを書き、何があるのかなど見てわかるようにしている。創作活動や散歩など、個別に声をかけ、ご本人の選択で決定できるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	活動着や寝巻きは、御自分で見て好みのものを選んで着ていただくように努めている。また、月に1回美容院の方に来ていただき、ご本人の希望に添えるようお願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや、食器拭きなど持てる力として、毎食お手伝いしていただけることは行っているように努めている。日々は厨房より食事は提供となっているが、月に1.2回は昼食の日としてホームで食事作りを行っている。畑から採れる野菜を使って季節の献立や、利用者の希望を取り入れたりしながら、調理を一緒に行って、利用者と一緒に食卓を囲んでいる。	三食とも法人の厨房からの配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。月1回～2回、昼食の日を設けて利用者の好みの献立を立て、事業所の畑で採れた野菜や差し入れの野菜など、旬の食材を使って事業所で調理している。利用者は野菜の下ごしらえや野菜を切る、卵を割る、味見、盛り付け、テーブル拭き、お茶を配る、下膳、箸を拭く、箸箱に収納、おしぼりを丸める、食器を洗う、食器を拭くなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲み会話を楽しみながら一緒に食事をしている。季節に合わせた昼食の献立(鯉のぼりランチ、和洋中華定食、破竹の煮物、蒸かしジャガイモ、夏野菜カレー、天ぷらソーメン、枝豆、ピーマン炒め、蒸かし芋、おでん)やおやつづくり(桜餅、おはぎ、トマトゼリー、ジャガイモ餅)、戸外でのバーベキュー、月1回の外食、誕生日には利用者と職員と2人での外食、季節の行事食(ソーメン流し、鍋物、お屠蘇やビールを付ける)など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量や水分摂取量が把握出来るように記録に残している。また体調等の変化に合わせて、食事の形態や食事量、水分量にも常に気を配りながら、随時お勧めをし補えるように努めている。個々の嗜好品を把握しながら提供している。また夜間にも、希望者には居室に用意をし、お聞きし水分をお出しするようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け誘導や見守りを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また入れ歯の洗浄や消毒等も行うことにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1日の排泄状況を一目でわかるような記録にし、個々の排泄パターンを踏まえながら、声掛け誘導で汚染を防げるように、支援を行っている。トイレでの排泄が行える事が、不安解消につながる事と考え、スタッフが会話からだけではなく、個々の表情や行動を理解できるように努め、支援を行っている。おむつに関しては自己負担ということスタッフ全員が理解しており、適切な使用方法を随時検討し、使用削減に取り組みを行っている。	排泄記録を活用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、利用者に向けた言葉かけや対応を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し、水分はお茶ばかりではなく、便通の良くなる素材を使った飲み物やおやつなど、その日に考え、提供している。毎日体操は食前に行い、室内レクなど体を動かすことに参加していただけるよう毎日の日課として、取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前、午後、また時間や順番は特に決めておらず安全に行えるように考えている。お声をかけ承諾いただき、毎日希望されても入浴していただけるように努めている。拒否された方は、なぜかを考え、次回にはどのようにしたら入っていただけるのかを、スタッフが意見を出し合い検討し、清潔が保て気持ちよく生活が送れるように努めている。	入浴は毎日、10時30分から18時まで可能で、利用者一人ひとりの希望に添って、ゆっくりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員を代えるなどの工夫をして対応している。利用者の状態によっては、シャワー浴や清拭、足浴、部分浴など、個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室 リビングでの休息はお一人おひとり自由に好きな場所でくつろいでいただけるように考えている。夜はゆっくり横になっていたようにし、時間を見て居室へ訪室し、睡眠の状況の把握に努め、お一人おひとりの生活習慣を崩されないように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬のセットの役割を持っている。薬に関しての情報のファイルがあり、薬の目的、用法、容量などを目で見る機会があることで、入居者の方の病状を理解をしながら、その方の変化や状態を確認している。また服薬方法も個々の能力に合わせ、内服が出来るように支援している。飲みにくい散薬等は内服拒否になられないようにお一人おひとりの状況に合わせて検討も行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの役割が持てるように1日の生活のリズムを考え、何事もスタッフで行わず役割が持てるよう支援している。また今日の予定などを一緒に考え、楽しみが持てる関わりが出来るように努めている。毎月の行事予定を掲示し、外出や一緒に調理を行う昼食の日など楽しみにされるように支援している。	テレビやDVD視聴、新聞や雑誌を読む、音読、歌を歌う、ハンドベル、ぬり絵、折り紙、あやとり、習字、かるた、壁画作品づくり、計算ドリル、バランスゲーム、ヨーヨー釣り、エビ釣り、風船バレー大会、餅つき大会、どんぐり拾い、散歩、外出、手芸作品(さげもん、揺れる午、押し花、秋の額作り、蓮の実作品、蛤作品等)、しめ縄づくり、地域の祭りへの参加、祭りに参加している子どもへのお接待、雑巾縫い、ゴミ箱づくり、畑仕事、草取り、掃除機をかける、はたきをかける、箒で掃く、布団干し、布団たたみ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おしぼり干し、おしぼりたたみ、マッサージをする、テーブル拭き、食事の準備、食事の後始末など、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、利用者が喜びや張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせての施設外への散歩を希望に添えるように努めている。また誕生月にはスタッフと事前に話し合い、個別に外出していただいている。外出行事にご家族の方にもお誘いをし一緒に出かけられたり、地域の行事などにも参加させていただき、移動のサポートも地域の方々が協力をしていただける。	周辺の散歩や買物、地域の夏祭りや神社祭に出かけている。季節の花見(天満宮の梅まつり、向島の桜、維新公園の紅葉)、初詣、梨狩り、観光(阿知須雛もん見学、常磐公園、旭サンファーム、徳山動物園)に全員で出かけている他、誕生日の個別外出(津和野日帰り旅行)や家族の協力を得て墓参や法事への出席、稲田の見学、外食など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>各担当者が誕生日等に外出支援をし、必要なものを購入したり、お好きなものを購入し、食べたいものを選んで食べていただけるようにしている。</p>		
52		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は希望があれば出来るだけかけていただくようにし、ご家族にも事前にお話をしご理解をいただき、ご本人が安心されるように努めている。毎年賀状は自筆で書いていただけるようにし、届いた方にはお返事を書いていただけるように努めている。</p>		
53	(23)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>我が家として家庭的な雰囲気を感じていただけるように、家具等の配置には気配りを行っている。季節が感じられるように、入居者の方にお手伝いをしていただき、季節の壁画や飾りを制作し、室内の装いに変化を持たせる取り組みを行っている。また、ホール内に椅子やソファを多く配置をし、居心地よく過ごせるように支援している。家と変わらずに、テレビを見ながらくつろいだり、食事が出来るように配置を考え、工夫している。</p>	<p>共用のホールは明るく、室内には自由に組み替えることができる台形の机と椅子が配置しており、利用者が平穏で楽しく食事時間が過ごせるように工夫した配置となっている。テレビの前や外庭の見える場所には長椅子やソファを置き、利用者それぞれが思い思いの場所で自由に過ごせるように工夫している。対面式の台所は利用者と職員が語り合いながら一緒に食事の準備ができるようになっており、調理の音や匂いがして、生活感を感じることができる。壁面には利用者の共同作品の紙細工や写真を飾り、本棚には利用者や訪問客が自由に見ることができるように日々の活動記録写真が置いてある。温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を多く用意し、食事やくつろぎの時間で、席は好きなところが選べるように多く配置している。またトラブルがあれば、その都度テーブルや椅子等の配置等をスタッフで考えながら、集団で生活されることの苦痛や不満解消に気を配っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はご自宅から持ってきていただき、ご自分で好きなように配置をしていただいている。また写真や創作物も居室へ飾っていただけるようにしている。日中はほとんどの方が共有スペースで過ごしておられ、夜休まれる時に居室へ戻られる方が多い。	居室の入口には、利用者の氏名を頭文字にした散文詩に挿絵を描いた表札を掲げている。居室にはダンス、洋服掛けスタンド、椅子、雑誌、時計、仏壇、ぬいぐるみ、編物、鏡台、化粧品、など本人が使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真や本人の笑顔の写真、自作品を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。居室の前に続くテラスは、外の景色を眺めたり、畑に出ている利用者と話したり、布団を干すなど、毎日の生活に利用している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には、お名前に因んだ表札と行事や他で撮影した写真を適時張替え、ご自分の部屋に愛着が持てるように努めている。トイレも案内板を張り、ご自分で出来るだけ移動して生活していただけるように工夫している。出来る事、出来ない事を分かることなどをシートを作成し、スタッフ間の情報共有が出来るように意見交換も行っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 自由の杜

作成日: 平成 27 年 10 月 15 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時の対応法については、とっさの時に適切な対応が出来るのか、職員1人1人が経験年数も違い、いろいろな場面が想定できるため、様々なことを習得していく必要があると感じている。	少しずつでも実践力を身につけ、緊急時、急変に全職員が対応出来るようになる	必要な知識を身につけるために、緊急時の対応法等の研修に参加を行う 職員同士で、今後考えられる様々な内容の急変等に対して、どのように対応していけば良いのかをミーティングで意見交換を行いながらスキルアップに繋げていく	6~12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。